

六ヶ所村核燃料サイクル施設

8月19日、青森県三村知事が、英仏両国から返還される低レベル放射性廃棄物を六ヶ所村での一時貯蔵を受け入れる意向を表明しました。返還開始は2013年。青森県は、受け入れの前提に県内を最終処分地にしないことを求めています。六ヶ所村では、すでに高レベル廃棄物を受け入れています。その六ヶ所村に川本さんはじめ、市民ネット・社民・無所属会派で、8月17日に視察に訪れました。



青森県下北半島

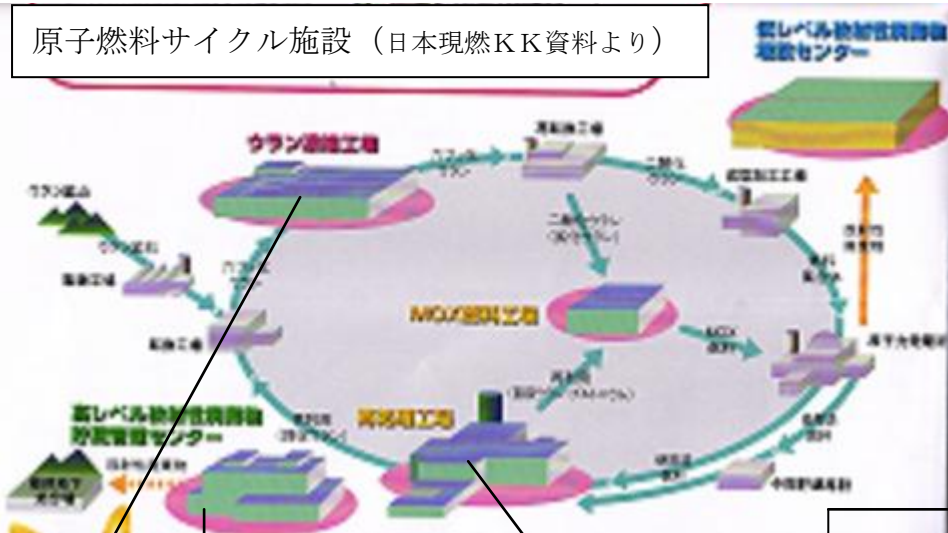
六ヶ所研究PRセンター

六ヶ所村の「核燃料サイクル施設」には、再処理工場、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター、ウラン濃縮工場、低レベル放射性廃棄物埋設センターがあります。



ここには、2005年1月にラムサール条約に登録された「仏沼」があります。3種のレッドリスト掲載種が生息しています。放射能は大丈夫かなあ。

原子燃料サイクル施設（日本現燃KK資料より）



高レベル廃棄物を積んだ船が横付けされ、専用道路から再処理施設に運ばれる。



原発の使用済み核燃料を積み上げるための2基のクレーン。



Uranium Enrichment Plant / Uranium濃縮工場  
 Low Level Radioactive Waste Disposal Center / 低レベル放射性廃棄物埋設センター  
 Multi-Use Water Port / むつ小川埠頭  
 Obuchi Marsh / 岡敷沼  
 Reprocessing Plant / 再処理工場

【廃棄物の区分と処理】

再利用可能な放射性物質として扱われない廃棄物

【低レベル放射能廃棄物とは】  
原子力発電所、再処理工場等において、施設の運転・保守、放射性物質の使用、施設の解体等に伴って発生する放射性廃棄物のうち高レベル放射性廃棄物以外の放射性廃棄物です。その放射能濃度に応じて、地表から比較的浅い地層中で処分されます。

【高レベル放射性廃棄物とは】  
原子力発電で使われた使用済燃料を再処理した後に残る放射能レベルの高い廃液をガラス原料と融かし合わせ、キャニスター（ステンレス製の容器）の中でゆっくりで固めたものです。

【次世代エネルギーパークとしての六ヶ所村】

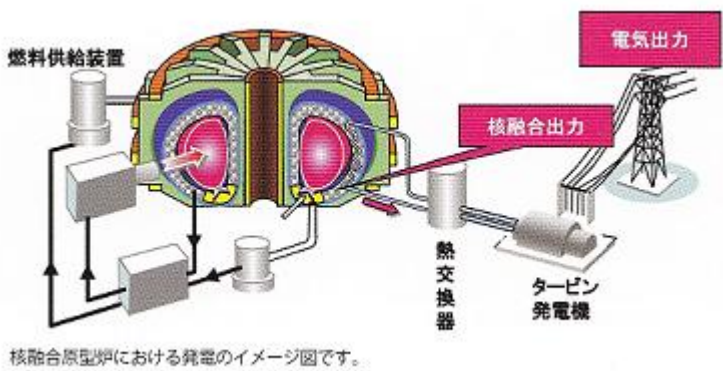


廃棄物の区分	廃棄物の例	処分の方法(例)
クリアランスレベル以下の廃棄物 (放射性物質として扱う必要のないもの)	原子力発電所 解体廃棄物の 大部分など	再利用型 再生利用や産業廃棄物 としての処分が可能
低レベル 放射性 廃棄物	① 放射能レベルの 極めて低い廃棄物	管理型 浅地中処分 (トレンチ処分)
	② 放射能レベルの 比較的低い廃棄物	管理型 浅地中処分 (ピット処分)
	③ 放射能レベルの 比較的高い廃棄物	管理型 余裕深度処分 (地下50m以上の 地中への処分)
	④ 放射能レベルが高く 長寿命核種(注1)が 比較的多く含まれる 廃棄物	隔離型 地層処分 (地下300m以上の 地層への処分)
高レベル放射性廃棄物(注2)	ガラス固化体	隔離型

六ヶ所村に近づくとも最初に目に飛び込んできたのは、たくさんの大型風車。環境に優しいと言われた風力発電も低周波の影響が各地で問題になっています。それにしても、せつかくの自然の風景が……。(合計 77 基の大型風車)



【100年後の燃料 核融合】



核融合原型炉における発電のイメージ図です。

(図は、六ヶ所村次世代エネルギーパークガイドブックより)

六ヶ所村の問題は、核燃料サイクル施設とっていましたが、風力発電、核融合の研究と、たくさん問題がありました。核融合も未来の地球に良いかなと思います。核融合に必要な摂氏1億度をどうやって閉じ込めるのかなあ。風力発電もできてから問題が出てきました。そういう心配の無いエネルギーって、なんだろう？

太陽が燃えているのは、核融合反応を起こしているからです。核融合エネルギーを作るといことは、太陽を作り出すということです。燃料の重水素は限りなく海に有り、核融合燃料1グラム=石油8t、二酸化炭素の排出が少ないといわれています。実現まで100年以上はかかるそうです。

